

コルティナ・ダンペッツォ

近藤 節夫

今年7月新たに13の世界遺産が登録された。そのひとつにイタリア、南チロル地方のドロミテ山塊に抱かれた風光明媚なリゾート地、コルティナ・ダンペッツォがある。

1956年この地で冬季オリンピック大会が開催された。その時アルペン・スキー種目で圧倒的な強さで史上初のアルペン三冠王となったのが、オーストリアの至宝トニー・ザイラー選手だった。奇しくも世界遺産登録の翌8月、'黒い稲妻'ザイラー選手は多くのスキーファンに惜しまれながらこの世を去った。オリンピックが終わってもコルティナの人びとは、この山深い僻地でオリンピックを開催した誇りとザイラー選手の功績をいつまでも忘れることなく、アルペン・スキー会場となったゲレンデ下のロープウェイ駅にオーストリアの国旗を掲げた。それから時を経てオリンピックで翻った、9つのメダリストの母国国旗が掲揚されるようになり、今ではあの緑濃いリゾート地にアジアの中でただひとつ、白地に赤い日章旗がへんぽんと翻っている。

日の丸は、ザイラー選手に次いで回転競技で銀メダルを獲得した日本の猪谷千春選手の功績を讃えたものだ。このコルティナとザイラー選手の母国オーストリアでは、今でも最も有名な日本人は「イガヤ」である。

ところが、この山懐深いコルティナへ行くのは、時間がかかり少々厄介である。日本人観光客もここまでは容易には訪れない。標高1,224mの山間のリゾート高原であるだけに公共交通機関に乏しく、通常は車で訪れるほかに手段はない。しかし、北の入口オーストリアから下るにしろ、イタリア南部から上ってアクセスするにせよ、数多くのバリエーション・ルートに恵まれ、どの路を選んでも牧歌的な田園地帯を通り抜け、トンネルを潜り抜け岩肌に沿って走り、窓外に展開される目を見張る「ドロミテ・アルプス観光ルート」の絶景と「逆さドロミテ」のミズリーナ湖の天然の美は、「絵にも描けない」美しい山の竜宮城である。

街はお伽の国のようにこじんまりと上品にまとめられ、その中心には瀟洒なショップと山小屋風のホテルが点在し、いくつものロープウェイが観光客を雲上の世界へ誘い、思う存分ヨーロッパ・アルプスの美観を味わわせてくれる。展望台トファーナ・ディ・メッツォの標高は、実に3,244mを誇り、日本第二の高峰・北岳の3,192mを凌ぐほどである。

これだけ自然の美に恵まれ、それらが大切に保存され、アルプスの高所から観光客の目を楽しませてくれる広大なランドスケープはそうざらにあるものではない。敢えて難点を挙げれば清潔過ぎることと温泉がないことぐらいだと言えれば贅沢だろうか。